

写真部門 コメント一覧

一般

名前	タイトル	コメント
羽深 由美子	雨上がり	<p>この写真はスマートフォンで創大の景色を撮りました。</p> <p>創大は私にとってワクワクする場所です。なぜなら、緑が豊かでこんなにも美しい景色を毎日みることが出来るからです。このような場所で学べることを心から誇りに思います。</p>
永井靖二	桜の学び舎2019	<p>寒緋桜からはじまり大島桜、染井吉野、八重桜など2,500本の多彩な桜が楽しめる創価のキャンパス。遠くには、富士が見えるぞ。</p> <p>創立者に見守られながら厳寒の冬を乗り越え桜花爛漫の春へ。冬は必ず春となる――。人生もかくあれ！</p>
遠藤昌美	小波（さざなみ）	<p>ゼミ合宿で行った宮古島の海で撮った1枚。</p> <p>東日本大震災以降、海に行ったことがありませんでしたが久しぶりに見た海を美しいと思い、色々考えさせられた出来事だったため選ばせて頂きました。</p> <p>場所は違えど海は繋がっているし、綺麗で穏やかな海が牙をむくこともあるということに改めて感じました。</p>
岡林 あおぞら	故郷	<p>10年ぶりに帰る故郷。</p> <p>あちらこちらに町おこし作戦か？ 駅や観光地までできていた。</p> <p>思い出しながら歩く懐かしい道。</p> <p>まだ誰にも知られていない観光スポットで横倉山を一枚。</p> <p>川に移る山に夢中な川に移る自分の顔を見て一言。まだ子供だったか。</p>

写真部門 コメント一覧

<p>岡林 あおぞら</p>	<p>宝島</p>	<p>沖縄の海に住むヤドカリ。 出てくるまでスタンバイして待った時間約5分。 その瞬間を見事に捉えた一枚です。 同時に、「いつでも家に帰れるなんて、なんて贅沢な。」と思った一枚。</p>
<p>高山希望</p>	<p>豪雨の爪痕—福祉施設</p>	<p>撮影場所：広島県三原市大和町 一年前の豪雨の爪痕は未だ残っています。テレビでももうこの豪雨災害の情報は入って来ませんが、いまだに爪痕と共に生きている方々もいらっしゃることを伝えたくこの写真を撮りました。 撮影した場所は特別養護老人ホームですが、一階は土砂で壊され、一部は埋まったままでした。</p>
<p>高山希望</p>	<p>市民の心の支え</p>	<p>撮影場所：広島県広島市 広島城三代目天守は広島原爆からの復興のシンボルでもありました。 復元してから六十年以上経った今でも広島市の街を見守っています。</p>
<p>山下舞愛</p>	<p>大きくなるんだ！ いつか、この空を覆うほどに！</p>	<p>同じ部屋で暮らしている観葉植物を主役に写真を撮ってみたいと思い、撮影しました。 場所は自室のベランダ、時期は6月頃です。買って来たばかりの頃は、丁寧に扱わなければ折れてしまうのではないかと、思う程に小さかったのですが、少し目を離すといつの間にか背を伸ばし、新たな葉をつける、その生命力には驚かされてばかりです。力強い生命の在り方を表現したいと思い、シャッターを切りました。</p>

写真部門 コメント一覧

山下舞愛	旅立ちの季節	<p>桜が綺麗だったので、バスを使わずに歩いて帰ろうと思い、その道中の富士美術館横の歩道橋から撮影しました。</p> <p>桜の季節は、旅立ちの季節です。</p> <p>何かと大変なことが多い季節でもありますが、短い時を一生懸命に咲いている桜の花を見ると、つられて頑張ろうという気持ちになってしまいます。この作品を見た人にも、この感動が伝わると嬉しいです。</p>
山田広大	DawnDrawsNear風に抱かれて	<p>夜明け前とはとてつもなく大きい苦しみとかすかな希望を感じる瞬間だろう。</p> <p>人はみな大なり小なり悩みを持って生きている。目標が大きすぎて全く前に進めていないように感じてしまう。周りと比べてしまい、自分らしさがわからなくなる。大人が言うことは頭では理解できるが、心が言うことを聞かない。</p> <p>いつもの散歩道、冷たい風が優しく吹き、ササーと草がこすれた音がする。音がする方を見ると空が目に入った。ほんのりと焼けた空だ。よく見る景色だ。特別なことは何もない。</p> <p>小さな変化に感動を、今あるものに感謝を。</p>
酒井萌衣	無限	<p>数えてたら「あれ？」となるもの集めてみました。</p> <p>そして「無限」に見えるかも？</p>
小川小春	Dusk, India	<p>インド留学中に各地で撮った夕暮れの写真です。</p> <p>一般的にインド、という国のイメージからは少し違った風景になりました。</p>
小川小春	インドにて	<p>インドで撮った印象的な写真です。</p> <p>どこを切り取っても、面白い。物語が生まれる。それがインドです。</p>

写真部門 コメント一覧

小川小春	春の息吹	<p>創価大学の桜を写ルンですと撮影しました。</p> <p>春の淡い夕暮れに映える桜の木を下から撮りました。</p>
松岡佐耶	継承	<p>デンマーク留学中に訪れた、アスコーホイスコーレの池田ダムから撮影。</p> <p>実は100年ほど前、ここの校長のお嬢さんが牧口常三郎先生にポストカードを送ったそうです。無事に届いたのか、そこに至った経緯は定かではありません。時は流れ、2000年、創立者と現地の方々の計らいで、創大とアスコー校の交流開始。</p> <p>この縁は偶然ではないと思います。100年前のポストカードの写真と同じアングルからカメラを構えた時、「託すよ」と言われた気がしました。アスコー校を象徴する三角の屋根は当時はなかったそうですが、時代は流れても、変わらず受け継がれているものを感じました。</p>
石井美優	ねえ、やっぱり行っちゃうの？	<p>学生寮に入るため家を出る前に、祖母の犬“こはる”と散歩した時の一枚。</p> <p>市内を見渡せる堤防の上で立ち止まり、沈んでゆく夕日を見つめる“こはる”。黄昏れて何を思っているのだろう。その背中からは何かを惜しむ哀愁が漂う。</p> <p>沈む夕日なのか、それともそれとなく感じる、長く一緒にいた人間との別れだろうか。</p> <p>撮影者としては、後者であってほしいものだ。</p>
石井美優	緊張	<p>鎌倉・鶴岡八幡宮にて開催された流鏝馬の一枚。</p> <p>素駆(すばせ)を終えて戻ってくる、初陣して間もない葦毛の馬。昨年度に初陣を果たした一人の射手が付きっきりで練習したというが、その表情にはこれから始まる競射への不安や緊張が感ぜられる。</p>

写真部門 コメント一覧

石原玲菜	日々	<p>今年は18歳の夏で、初めて夏を東京で迎えました。</p> <p>東京には沢山のモノとヒトがいて、沢山の思い出ができて「東京にないものなんてない」と思いました。夏季休暇中に地元へ帰り、大好きな先輩や友人に会いました。</p> <p>私は目の前の事に精一杯で大切な事を忘れてしまっていました。私は夏が好きです。蝉の声も溶けたアイスも小麦色に焼けた肌もすべて好きです。私には、まだ知らない事やわからない事が沢山あり、毎日悩んでばかりの日々です。ですが夏と人は、いつまでも好きでいたいと思えるそんな夏でした。</p>
川西智恵	色彩	<p>北海道で撮影したものです。</p> <p>どこか懐かしい感じを感じ取ってもらえればと思います。</p>
川端光子	トンネルの向こう	<p>トンネルを抜けたらどんな景色が見えるのか、</p> <p>わくわくするけれどずっとこのままでもいいようなそんな気持ち。</p>
大内 マルセロ	FREEDOM	<p>「自由」という言葉が大好きで、人間や動物があるのまま、</p> <p>自由な動きをしている姿をカメラに収めました。</p>
大内 マルセロ	家族写真・はい、チーズ！	<p>熊谷のある公園にて、満開の桜の美しさに触れました。</p> <p>それと同時に、家族の美しさを感じ、シャッターを押しました。</p>
大内 マルセロ	希望の道	<p>私は、創立者の一本の道の詩と写真を拝見した際に、衝撃を受け、感動しました。</p> <p>いつか必ずや、自分の目で、この一本の道を拝見したいという気持ちになり、実現ができ、何より嬉しく思います。</p>

写真部門 コメント一覧

<p>大内 マルセロ</p>	<p>心を癒す春</p>	<p>私は、花の美しさや、鳥の音などに触れることが多くあります。 自然の中に足を運び、自然と対話をし、リフレッシュをしています。春はいつも私の心を豊かにしてくれます。</p>
<p>大内 マルセロ</p>	<p>絆</p>	<p>創始者から、教えていただいた「親孝行」のことが頭に浮かびました。 一年前に他界した、母親のことを思い出し、母親の分まで頑張れると感じました。</p>
<p>土居伸一</p>	<p>50年先もずっと</p>	<p>2019年4月、創価大学キャンパス内にて撮影。 創価大学に入学して初めて感動したのが、池田記念講堂前の夜桜でした。以来、毎年この場所で様々な写真を撮りました。 今、創価大学では、創立50周年に向けて様々な取り組みが行われていますが、50年先も創大生の心を動かす美しい桜が咲いていて欲しいと込めて、このタイトルをつけました。</p>
<p>土居伸一</p>	<p>いざ、全国制覇へ。</p>	<p>2019年6月、東京ドームにて撮影。 全日本大学野球選手権大会の試合で奮闘する創大野球部の写真です。 写真で野球を伝えるということを考えながら、プロアマ問わず試合を撮影してきました。 試合を撮る際、走る・投げる・取る・打つという野球の基本的な動作と、互いに励ましあうこと、応援してくださる人々への感謝という創大野球部の姿に注目しました。 全国制覇への道へ向かって、今日も創大野球部は汗を流していることでしょう。</p>

写真部門 コメント一覧

土居伸一	夏の琵琶湖を輝かせて	<p>2019年8月、滋賀県大津市にて撮影。 毎年撮りに行く「びわ湖大花火大会」のフィナーレの様子です。 日本一の湖である琵琶湖で打ち上がる花火の姿は、ダイナミックさと美しさを兼ね備えています。 滋賀の夏の風物詩である「びわ湖大花火大会」を見ながら、夏の思い出を振り返って頂けると嬉しいです。</p>
土居伸一	太陽のように	<p>2019年8月、大阪市・長居植物園にて撮影。 英語でひまわりはSunflowerと言いますが、咲き誇るひまわりの形や姿から太陽のように見えたことから、このように表現したのだと思います。 自らの姿を通して見る人を励ますひまわりの姿から、自身の人生のど真ん中に置きたいと思いながら撮りました。</p>
和智直人	己が道をゆく	<p>この写真も留学中に撮ったものです。 十分という場所でランタンをあげたり、線路に座れたりと様々なことを楽しめる場所です。なにがあっても、自分で決めた道を歩いていきたいとの思いを込めて撮りました。</p>

部員

名前	タイトル	コメント
伊藤真緒	蜉蝣（かげろう）	<p>蜉蝣という虫の体が弱く脆いように、地元の風景も友達も移り変わっていく様子を表現しました。 デジタルの写真をフィルムのようにレタッチすることで儚さや懐かしさを表しました。</p>

写真部門 コメント一覧

伊藤真緒 雑踏	<p>大阪へ旅行に行った際に大阪駅へ向かう人々の様子を写真に収めました。</p> <p>フィルムカメラで撮った写真なので、フィルム独特の色味や雰囲気を表すことができました。</p> <p>一人一人歩き方も服も歩幅も違うということから、個性を持つことへの肯定に繋がっていると思っています。</p>
川相亜笑 「なんだ、君は？」	<p>緑のbody 軽快なjump 俺たち見た目は違うけど 似た者同士の仲良しさ</p> <p>おう、バツタさんこんにちは やあ、カエルさんお元気かい？</p> <p>いつものように挨拶ひとつ そこに見慣れぬ黒い影</p> <p>「『なんだ、君は？』ってか そうです、ワタシが■■■■■■■■です」 (パシャッ！)</p>

写真部門 コメント一覧

川相亜笑 What's identity...?		<p>まじめ?おとなしい?冷静?</p> <p>眼鏡かけてるとさ、 だいたい眼鏡にちなんだ印象持たれがち。</p> <p>もうちょっとこう、眼鏡関係なしに自分を見てほしいと思わへん? 眼鏡は体の一部とちゃうんやからさ。</p> <p>そこが不服なんよな。</p> <p>眼鏡、とります。</p> <p>(まあ眼鏡とったところでって話やけどさあ…) (本当の自分って、なんなんやろ……)</p>
川相亜笑 ああ、しあわせの…		<p>ちょっと休憩、失礼するぜ。 なに、無賃乗車はいつものことさ。</p> <p>お礼?そうさな、 俺があんたの靴に偶然止まった『幸運』ってことで、 どうだい?</p> <p>(とんぼ…古来より縁起が良く幸運をもたらす虫として扱われる。勝虫とも。)</p>
川相亜笑 らぶ ふお～えばあ		<p>ずっと、ずっと、愛しています。</p> <p>今までも、これからも。</p>

写真部門 コメント一覧

<p>熊谷 きとえ</p>	<p>月光</p>	<p>カナダのルイーズ湖にて日没頃に撮影。凍った湖を真ん中まで歩き、ふと山の方を振り返ると東山魁夷の世界が広がっていた。</p> <p>夜になる直前の空色とほんのり灯る月、針葉樹林の濃い青、雪が周りの色をわずかに反射させて青みがかっている様子に見惚れた。雪によって辺りの音が吸収された静かな世界でシャッター音が鳴る光景は非常に神秘的な瞬間だった。</p>
<p>熊谷 きとえ</p>	<p>前進</p>	<p>山梨の電車の先頭車両にて撮影。電車を操る車掌さんの手に注目しています。白手袋と褐色の肌、機材と外の緑がとても良いなと思っています。</p> <p>電車が進む様子を見ていてワクワクする気持ちをこの写真を通して味わってもらえたら嬉しいです。</p>
<p>熊谷 きとえ</p>	<p>天空の掃除屋</p>	<p>朝8時頃、秋葉原の大通りに面しているビルにて撮影。青い空と白い雲が窓ガラスに反射して、清掃員の方が空を掃除しているように見えたのが印象的だった。</p> <p>窓にあるカラフルな広告も虹のようで美しいと感じた。縦にすることで空がより広く見えるようにし、清掃員が不思議な状態になるようにした。</p>
<p>熊谷 きとえ</p>	<p>冬の湖</p>	<p>カナダのルイーズ湖にて1月頃に撮影。冬の湖は雪に覆われ湖の上を歩いたりスケートしたりできる。湖である事を思い出させるような看板が印象的だった。</p> <p>歩いている人とロッキー山脈を組み合わせることで自然の雄大さを伝えようとした。辺り一面がモノクロの中で小屋が一際目立ち雪国らしかったので撮った。モノクロと鮮やかな世界が共にある様子を表現してみた。</p>

写真部門 コメント一覧

佐々木 正晴	beautiful days	きれいな夜景であっても、地元の人たちにとっては当たり前前の景色であり、いつも通りの日常である。 そういったことを考えて撮影しました。
佐々木 正晴	beautiful harmony	川越氷川神社にて撮影。 彩鮮やかに並ぶ数多くの風鈴が美しい Harmonyを奏でていました。
佐々木 正晴	雅	金沢にて撮影。 加賀100万石の伝統や堂々とした風格を感じることができます。
染谷竜舞	Zzz…	動物園などでは決して見ることの出来ない、自然の中でのびのびと暮らすうさぎは非常に珍しいです。今にも寝そうなうさぎたちを見ていると私まで眠たくなってきました。可愛いで…す……ね…………… Zzz…
染谷竜舞	なついろ	様々な場所へ足を運び、私の思う夏らしいものを撮ってみました。らしさといっても被写体によっては千差万別であり、人それぞれで目に映るものは異なると思います。このことから、夏はそれぞれが個性豊かな色を見せてくれるという意味の「夏色」と、作品を見てくださる方々にあの日のことを思い出してほしいという意味の「懐色」と、二つの意味を込めて「なついろ」にしました。
日野裕太	「何これ！何これ！」	水族館でクラゲ水槽を見ている子供達見慣れない生き物に興味津々な様子で、水槽を指差しながら楽しげに会話している。 そんな姿を見ていると、私が初めてクラゲを見た時の記憶が蘇るような感じました。

写真部門 コメント一覧

<p>日野裕太 誘い</p>	<p>水族館で出会った一匹のアカクラゲ もっと近くで見たい、その手に触れてみたい、そこへ一緒に連れて行ってほしい、ああ、水槽のガラスが邪魔ではない。 そんな危険な衝動を掻き立てる姿を少しでも表現できたらと思い撮影しました。</p>
<p>日野裕太 折り成す</p>	<p>折り紙をしている一人の男 明かりが1つ灯る部屋の中で男は作品制作を始める。 「国籍とか年齢に関係なく人々の心に残る作品を作り上げたい」と男は語る。 紙を折り始めると、僅かにあった会話すら無くなり、ただ紙の重なるような音が部屋に響き続けていった。 男の情熱と何十、何百もの折り線が1つの夢を織り成していく。</p>
<p>松尾俊希 君と夏が来た</p>	<p>同級生の子と大阪に撮影会に出向いた際淀川の河川敷で撮ったものです その日は雨が上がったばかりで雲の隙間から光が差し込む様子がとても綺麗でした 遠く離れた位置に立つ彼女がまるでその景色の一部になったようで息を呑み、思わずシャッターを切りました 風になびくスカートがその日の爽やかな風情を感じさせてくれます</p>
<p>松尾俊希 暁鐘（ぎょうしょう）</p>	<p>雨上がりの新宿都庁展望台から見えた景色でした 荘厳さに打ちひしがれましたがそれと同時にその景色を創立者池田先生と重ねる自分もそこには居ました この写真は僕にとって人間世紀の時代を切り開き、先駆者として最初の鐘を鳴らすのはまさしく僕たち創大生でなければならぬのだという自覚を改めて感じさせてくれる一枚です</p>

写真部門 コメント一覧

松尾俊希	星屑	<p>雨が降っているクラブ終わりに関西創価学園の最寄駅である河内磐船駅のホームで水たまりができていたので避けようとしたがふと見たらコンクリートの粒や水面に浮かぶ塵が水面に反射してまるで星空のように見えたのでつい撮ってしまいました</p> <p>それ以来僕は雨の日が僕にだけ見せる景色が大好きです</p>
松尾俊希	ママも居るよ	<p>当時僕はよく一人でお気に入りのスポットでもある「生駒山上遊園地」にカメラを持って出かけていました</p> <p>人も少なかったため途中父親と子供の二人で来ていた親子連れと仲良くなり互いの身の上話をしていた所</p> <p>父親は子供が生まれた際妻を難産により亡くなってしまったらしく、よく夫婦で来ていた遊園地に子供を連れて来ていたと言いました</p> <p>ただ、僕にはどうしても彼らの横に立つ木が母親に見えて仕方なかったのです</p>
松田悠希	「ん？」	<p>この写真はヒツジが何かに気づいたようにカメラに向かってくる様子を広角レンズで撮影しました。</p> <p>タイトルはヒツジの気持ちに立ってつけました。</p>
松田悠希	その先へ	<p>この写真はスローシャッターで撮ることによってスピード感を演出し、カーブの先に続く景色を想像していただけるようなタイトルにしました。</p>
宮下優羽	Nostalgia	<p>名古屋港の遊園地。</p> <p>錆びれた遊園地の寂しさ。まるでミニチュアのような動いていないメリーゴーランド。キラキラ煌めく場所に行ったことがなくても、懐かしさを覚えるような世界になりました。</p>

写真部門 コメント一覧

宮下優羽	置いてけぼり	<p>早朝の渋谷。 誰も気をとめず歩き去っていく。ゴミたちは置いてけぼり。さっきまで一緒にいたのにいつしか街に置いてけぼりにされてしまう。周りを見渡せば、ゴミで囲まれている。どうして、ここに捨てられなければならないなかったのか。あなたはゴミをちゃんと捨ててあげてますか？</p>
宮下優羽	帰路	<p>お台場。 1列にならぶシルエット。夕暮れの世界に温かさを感じます。日曜日の夕方のような寂しさも同時に感じます。</p>
宮下優羽	諦観	<p>江ノ島。福島県の牧場。 人に近い動物達。ふとした瞬間の悲しい目は可愛い面以上に私たちに何かを伝えている気がする。人間社会に似た哀愁を感じる。生きるための諦めも感じるかもしれません。</p>
村本将哉	晩夏に白音を	<p>福島にある緑の美しい沼の一景です。9月上旬のこの緑でも十分美しいですが、新緑の頃は水面に沢山のボートが浮かび、楽しい音が聞こえるのが想像できると思います。 この日は一つの船が白波を立て、彩を失い始めた寂しい山中に音が添えられました。</p>
日野裕太	私の歩く道	<p>小さな靴と、一人の女性 かつての自分と今の自分 かつて追いかけた夢と今、目指している目標 たとえ2つの間に大きなギャップがあったとしても 自分がその道を歩いて来たことを誰も否定できない かつての自分を胸に抱え、今の私はこの道を歩み続けていく</p>